

# 「いえしまフィールドワーク2」

1



2日目朝の役場集合。

2



今日のフィールドワークの戦略を練る。

3



ランチに「あじこ」のお好み焼き（家チーム）。

4



路地からフィールドワーク（家チーム）。

5



ランチに穴子の太巻き（島チーム）。

6



住民に島の話聞く（島チーム）。

## フィールドワークとスタディ

役場で研修会メンバーから昼食スポットについての紹介。その後、先日に引き続きグループごとにフィールドワークに向かいました。前日からの「個人の興味を大切に」しながらも、とりまとめの方向性についてもグループで議論しながら取組みを進めていきました。

## 交流会

家島荘に集合。バーベキューでは、鯛を丸ごと一匹焼くなど（しかも人数分以上！）ありえない作法にみんな興奮状態。さらに鯛やアオリイカの刺身、海老の踊り食いなども堪能しました。また、家島住民から生の情報を聞き出す貴重な機会として、積極的にコミュニケーションを取り、交流を深めました。

## 家チームからの報告

家島に訪れた時に感じた第一印象を主観に持つことが大切だということを念頭に「段・廃墟・文字・照明」の4つの系統に分け発表を行いました。島内の様々な段々。ノスタルジーな町並みにある廃墟とトタンのある風景。落書きや、家島の玄関を彩る照明など、家島を訪れた時に最初に惹かれたものを突き詰めてガイドブックを作っていきたいということを発表しました。

## 島チームからの報告

1日目と同じく個人の興味を大事にしながら海側の集落風景を、午後は山側の集落風景をカメラに収めました。フィールドワークを行って行く中で「原チャリ」・「階段」・「コミュニケーション」といった装置、風景に視点を絞りました。いずれの風景も住民が自分のライフスタイル、あるいは地形に適応させた使い方をしており、そこに家島の人の姿を見る事ができました。

## 町チームからの報告

フィールドワークでは集めた写真のシリーズ化を試みる事が確認されました。外に向けた時計を集めた時間シリーズ。整理整頓されたほうきとちりとりのお掃除セットシリーズなどなど。町グループの課題はこの集めた素材をどう活かしていくかです。情報満載のガイドブックではなく多少情報が少なくても歩くきっかけになる不親切なガイドブックも考えていきたい、という発表内容でした。

## 伊藤さんの講義

各グループの発表を受け、「企画する」「原稿をとる」「文章を書く」「構成する」「司会する」「広告」の6か条を教えてくださいました。また、「誰に何をどのように見せるか」という点を問題提起いただき、意見交換の論点となりました。

## 朝まで意見交換

各チームのガイドブック像の統一を図るため、伊藤さん、山崎さん、清水さんを交えた意見交換が行われました。全体で目指すガイドブック像として、家の中で行われていると思われるものが外に滲み出ていると見ることでできる風景を集めて編集することになりました。長期的な狙いとしてガイドブックをツールとして家島住民と訪問者のコミュニケーションが生まれることを展望するという形になりました。

7



島のおばあちゃんとコミュニケーション。（町チーム）

8



朝日新聞記者に取材を受ける町チーム。

9



研修会メンバーによる交流会開始。

10



家島名物魚でBBQ。

11



各チームによる経過発表。

12



各チームの発表を受けての伊藤氏講演。